

美濃いび茶の出来吟味

揖斐川町で一番茶共販会

県内有数のブランド茶「美濃いび茶」の今季初の一番茶共販会が1日、揖斐郡揖斐川町極楽寺のJA全農岐阜美濃茶流通センターで開かれ、県内外の卸売業者が今年の茶の出来を吟味した。

美濃いび茶は、同町

と同郡池田町の約220畝で栽培されている特産茶。今年は、3月の冷え込みで生育が例年よりも遅れたものの、4月以降の気温の上昇と適度な降雨によって良質な茶葉に育っているという。初の共販会には、共

同工場3カ所と個人農家4人が40点(計453点)を出品した。参加業者25人は、茶葉を一品ずつ手のひらに載せ、茶葉の色や形、香りなどを確認。さらに試飲をして味をじっくりと比べ、入

当たりの平均落札額は2892円(昨年3686円)、最高価格は4万8千円(同5万8千円)で、いび茶の里(揖斐川町桂)が落札した。

(山田雄大)



今季初めての一番茶の香りなどを吟味する卸売業者＝揖斐郡揖斐川町極楽寺、JA全農岐阜美濃茶流通センター